

事務事業名	障がい児等保育対策事業(私立分)	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
政策名	(Ⅲ)支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	所属G	教育・保育グループ	課長名	渡部 泰昌
施策名	(26)子育て支援の充実	担当者名	湯立 龍幸	電話番号	0854-40-1044 (内線) 2253
目的:対象	子どもの保護者と産み育てたい意図 安心して子育てができる。 夫婦	予算科目	会計 款 大事業 大事業 0 1 1 5 0 1 事業名 1 0 2 0 6 8 事業名	私立保育所総務管理事業 障がい児等保育対策事業補助金	
基本事業名	(077)子どもの心と体の健やかな発達支援				
目的:対象	保護者 意図 子どもを健やかに育てる環境がある。				

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (17 年度～)
	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) ○障がい児等の保育の促進を図るために、保育士を配置し障がい児等を受入れる市内私立認可保育園(保育士加配配置・補助基準に準ずる児童の受入)に対して、補助金を交付する。 ○財源は県単しまねすくすく子育て支援事業(障がい児保育事業:特別児童扶養手当受給児童が対象、発達促進保育事業:療育手帳若しくは身体障がい者手帳交付児童等)

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	30年度実績(30年度に行った主な活動) 該当基準による障がい児を受入、加配保育士を配置している保育所への補助 補助金申請の審査、決定、交付、支払	元年度計画(元年度に計画する主な活動) 該当基準による障がい児を受入、加配保育士を配置している保育所への補助 補助金申請の審査、決定、交付、支払			
	② 活動指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
	ア 補助金支払件数	回	2	1	2	1
	イ					
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
	集団保育が可能な、日々通園できる保育に欠ける障がい児及び障がい児受入実施保育園	ア 就学前の障がい児数(私立)	人	3	2	6	3
		イ 障がい児受入れ施設数(私立)	園	2	1	2	1
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)	
保育所での適切な保育環境のもと、健常児との相互作用で心身の成長発達を促す。	ア 保育実施児童数/入所申込児童数	%	100.0	100.0	100.0	100.0	
	イ						
	ウ						

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (30年度決算)	② コストの推移	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(計画)
○障がい児等保育対策事業補助金:9,828千円 四ツ葉学園保育所 対象児5名 あおぞら保育園 対象児1名 四ツ葉学園保育所補助額 8,354千円 あおぞら保育園 補助額 1,474千円	財源内訳	千円			0	0
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円	428	513	299	299
	地方債	千円	3,800	2,900	9,500	9,500
	その他	千円				
	一般財源	千円	92	43	29	29
	事業費計(A)	千円	4,320	3,456	9,828	9,828
	人件費	人	3	3	2	
	正規職員従事人数	人	3	3	2	
	延べ業務時間	時間	200	200	200	
	人件費計(B)	千円	793	815	866	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	5,113	4,271	10,694	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・引き続きある程度の特別な支援を要する児の保育所入所が見込まれる。 ・医療的ケアを要する児の入所希望もあり加配保育士のみならず「看護師」の配置も必要となるケースがある。	・加配保育士配置にあたっては事前に要望書を求め、予算確保に努めている。	・受入れ施設からは、加配保育士を配置すればするほど人件費がかさむという声がある。よって、補助金交付要綱の見直しが必要。※補助基準額の見直し

事務事業名	障がい児等保育対策事業(私立分)	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
-------	------------------	-----	--------	-----	--------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由																							
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →																								
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？																									
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？																									
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →																								
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？																									
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	これからも引き続き障がい児を受け入れていくため。																							
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない																									
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？																									
D 公平性	<input type="checkbox"/> 影響無	理由	障がいのある子どもを育てる保護者の働き方が変わったり、児童の発達への影響がある。																							
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有																									
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？																									
A 目的 妥当性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	理由	障がい児等の受け入れを積極的に取り組むための事業であり、他に手段はない。																							
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる																									
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない																									
B 有効性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由																							
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	障がい児の私立保育園への入所希望があった場合、私立保育所へ保育委託することになり、保育士を配置する経費が補助対象となることから、削減することはできない。																								
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない																									
C 効率性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由																							
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	補助金交付事務のため、削減の余地はほとんどない。																								
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない																									
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由																							
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	障がい児保育を実施した市内の私立認可保育園を対象としているため偏りはない。																								
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である																									
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)																							
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		② 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持		●	×																						
	低下		×	×																						
・補助基準額引き上げによる財源の確保(保育士を加配するため必要経費は補助額以上にかかっている) ・特別に支援が必要な児童が年々増加傾向にあり、これに対応するための保育士の確保が課題となってきた。		廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																								

3 今後の方向性【PLAN】